

NISSAN MOTOR COMPANY



日産自動車の環境の取り組み

日産自動車株式会社
経営戦略本部
有田 洋介

2016年10月18日
サプライチェーン排出量 算定・活用セミナー

Vision: 人々の生活を豊かに

中期経営計画



中期環境行動計画

Nissan
Green
Program
(NGP) 2016

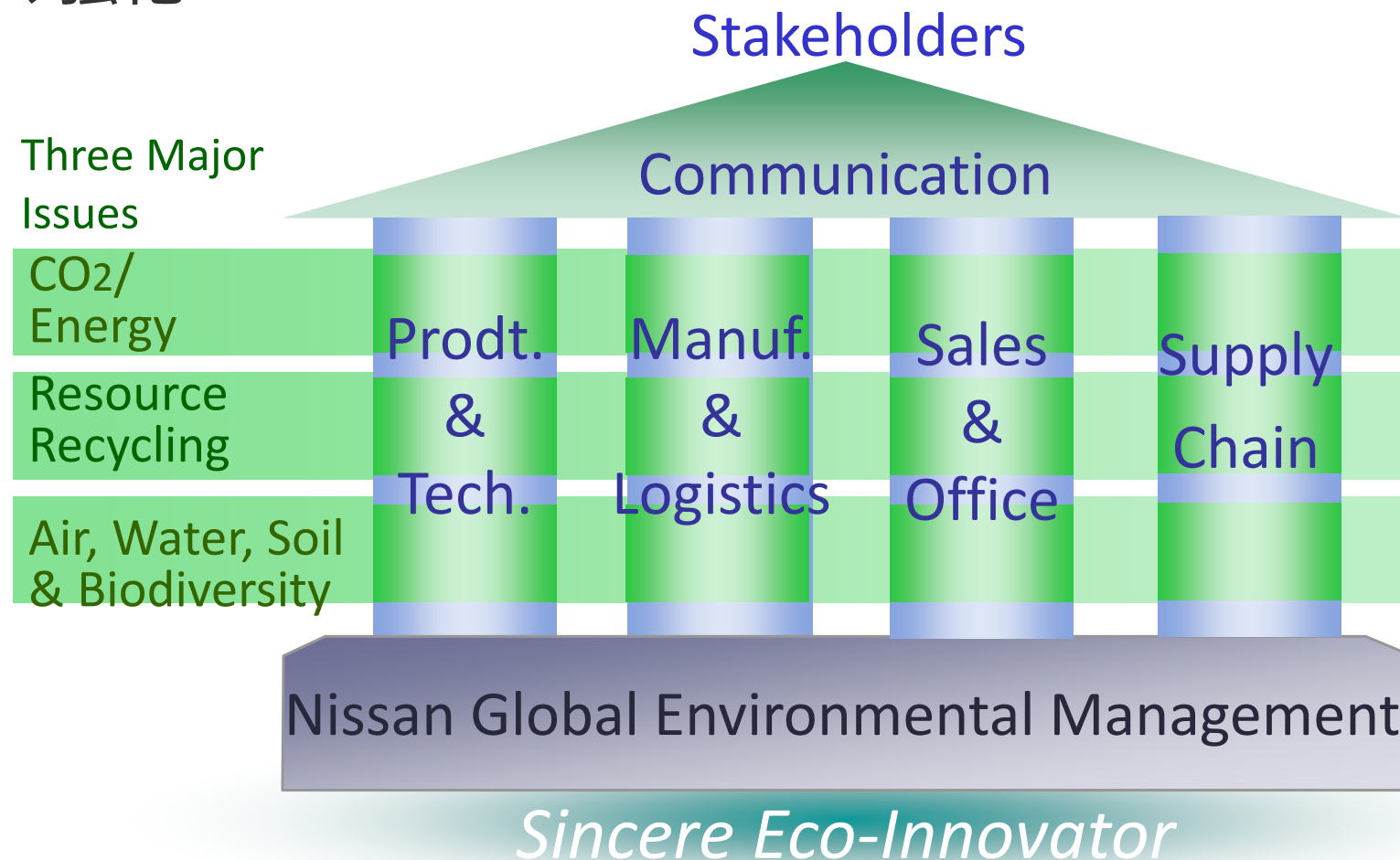
地球規模の課題

- 世界人口の増加と経済の成長は、エネルギー、資源、生物多様性に大きな影響を与えつつある



グローバル環境マネジメントのフレームワーク

- アクションプランと目標値を各機能部署とサプライチェーンに共有し、連携しながら活動推進
- 社会、有識者、投資家、専門機関等のステークホルダーの声を参考に取り組み強化

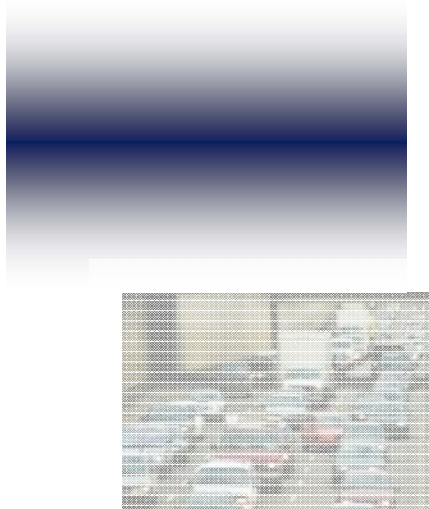


NGP(Nissan Green Program)の始動と変遷

'02年1月～

NGP2005

都市・地域の
環境負荷を抑える



'06年12月～

NGP2010

地球の環境負荷を自然が吸収
可能なレベルに抑える



'11年10月～17年3月

NGP2016

地球の環境負荷と資源利用を自
然が吸収可能なレベルに抑える



排出ガスのクリーン化

CO2排出量・廃棄物の削減

資源の循環利用

「NGP 2016」のキーとなる取り組み

▶ ゼロ・エミッション車の普及

No.1
シェア



▶ 低燃費車の拡大

35%改善



▶ カーボンフットプリントの最小化

20%削減



▶ 新たに採掘する天然資源の最小化

25%削減



Material

Parts

Production

Logistics

Office

Dealer

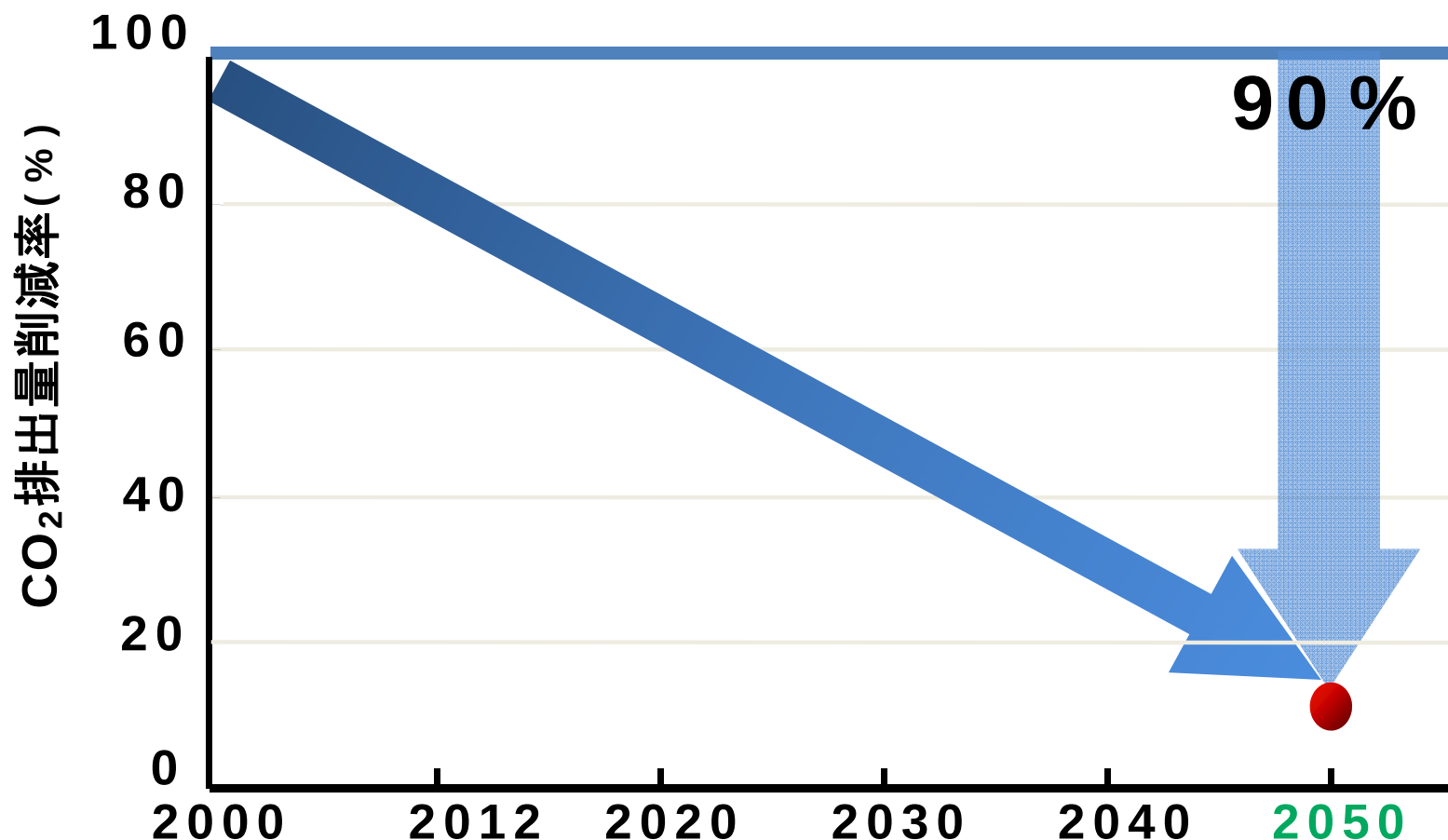
Vehicle
Usage

Recycle

低燃費車の拡大

2050年に向けて新車から出る1台あたりCO₂ 90%削減
(2000年比)を目指す

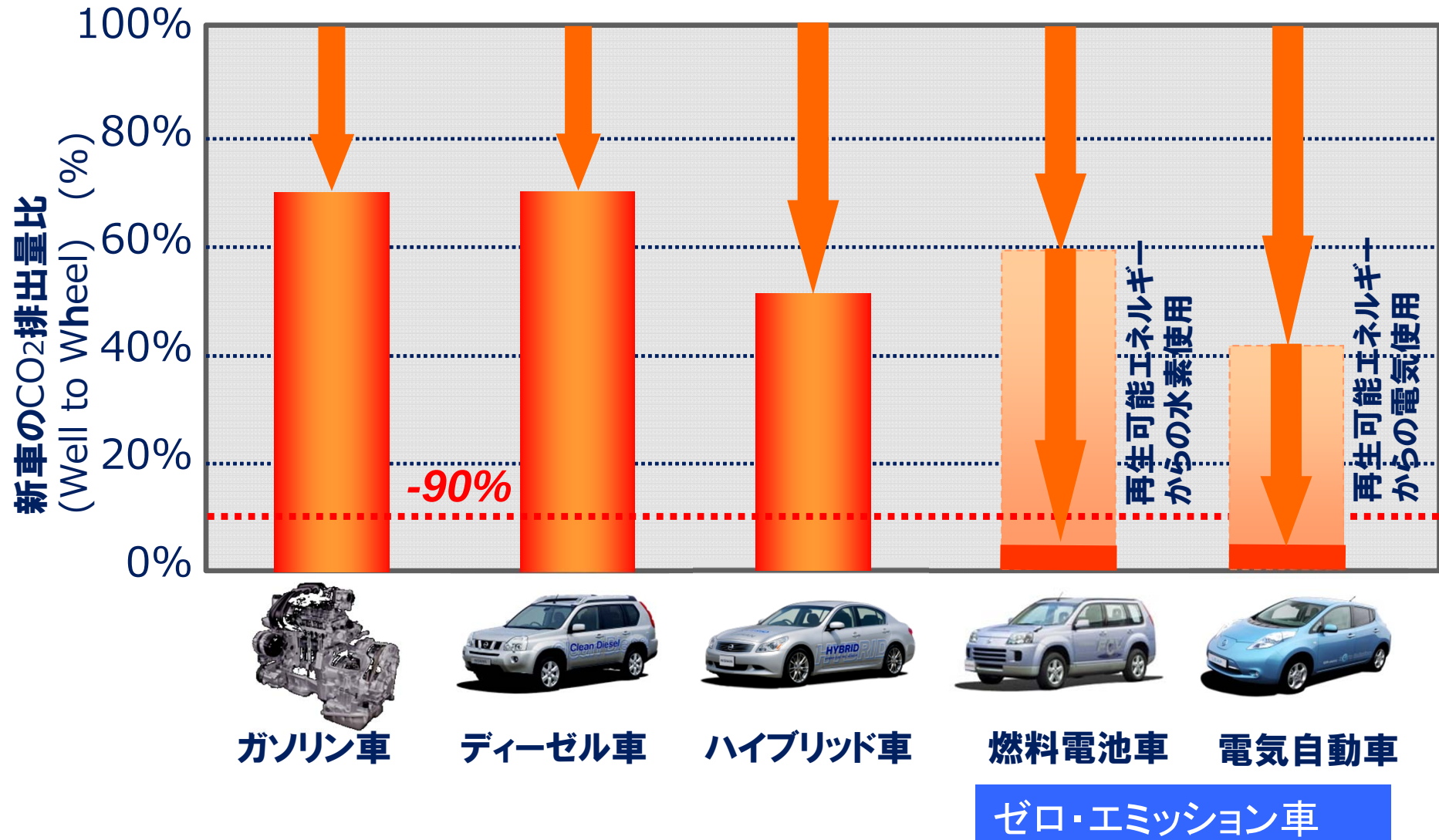
原材料 > 部品 > 生産 > 物流 > オフィス > 販売 > **クルマ使用** > 廃棄



* 日本、北米、欧州、中国での企業平均燃費

温暖化:CO₂削減へのシナリオ “Electrification”

■ 究極ゴールは「ゼロ・エミッション車」と「クリーンエネルギー製造」

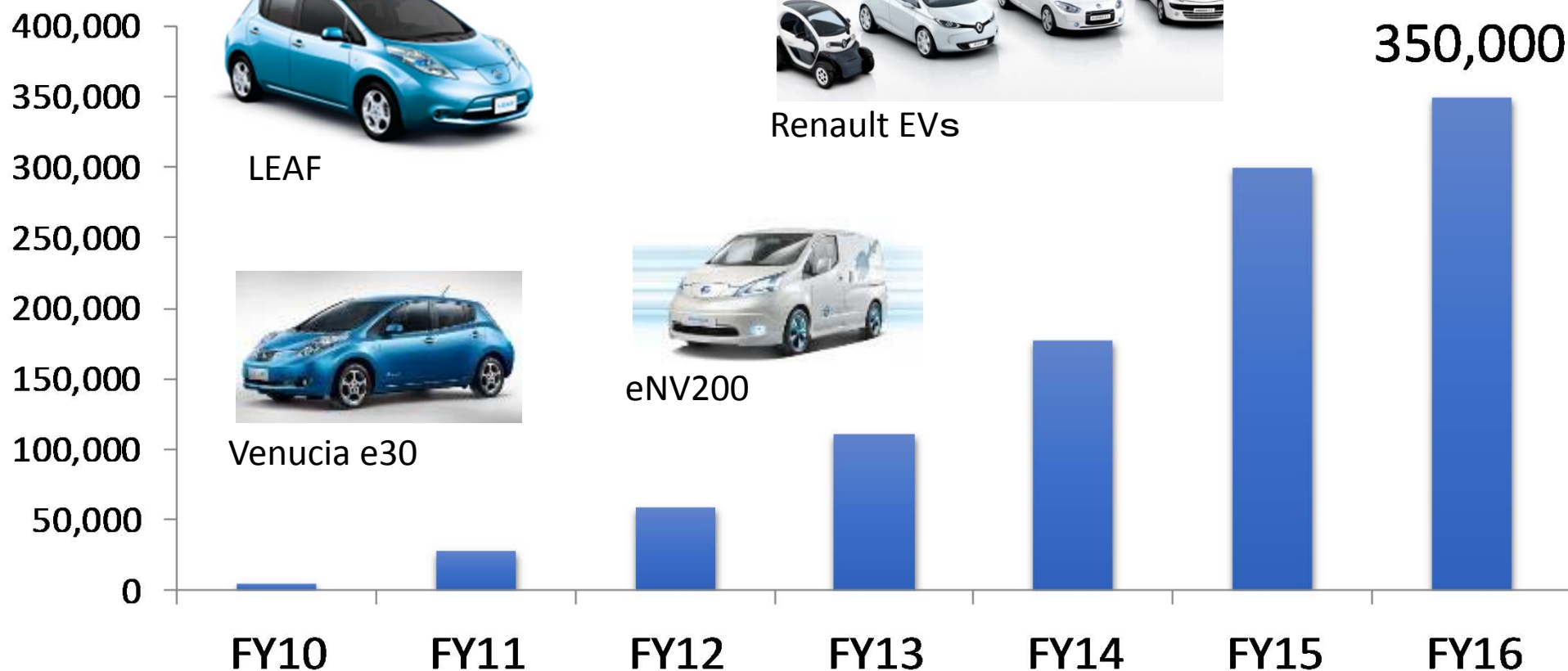


ゼロ・エミッション車の普及

- ルノー・日産アライアンスとして、累計350,000台超のEVを販売
世界最大の販売台数を誇る (2016年9月末時点)

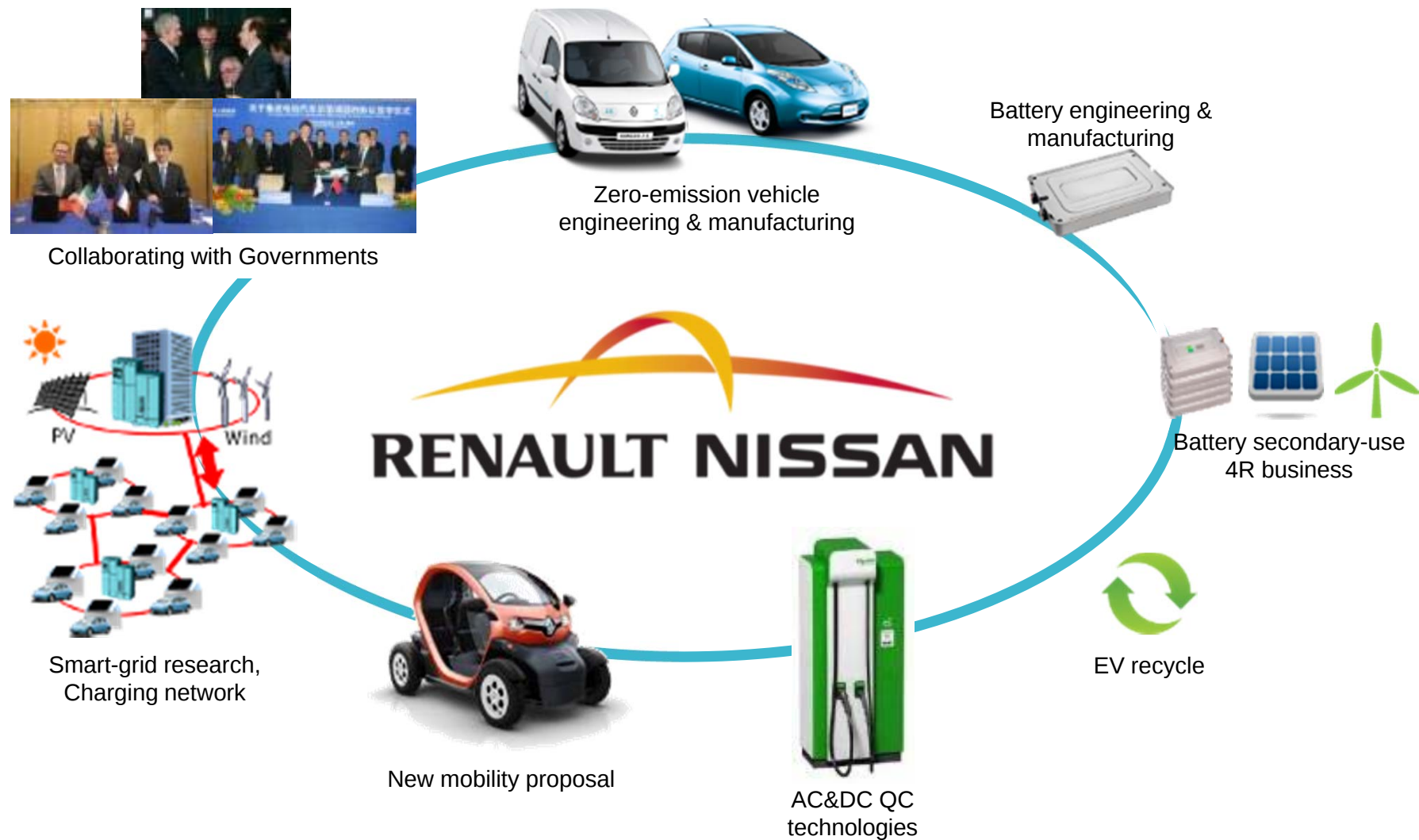
グローバルEV販売台数推移(累計)

(Vehicle unit)



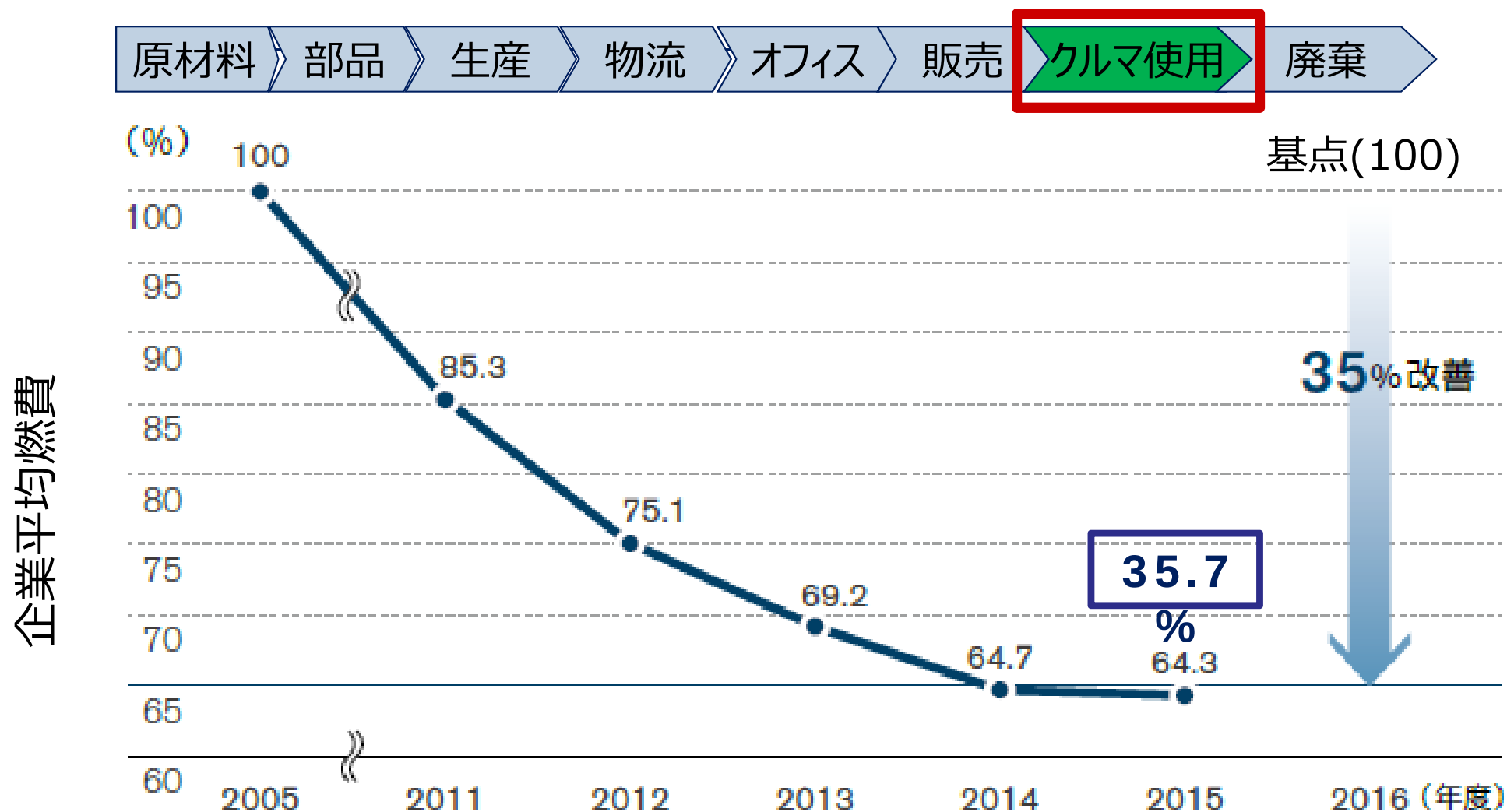
'15年12月末時点

ゼロエミッション社会実現に向けた包括的アプローチ



低燃費車の拡大

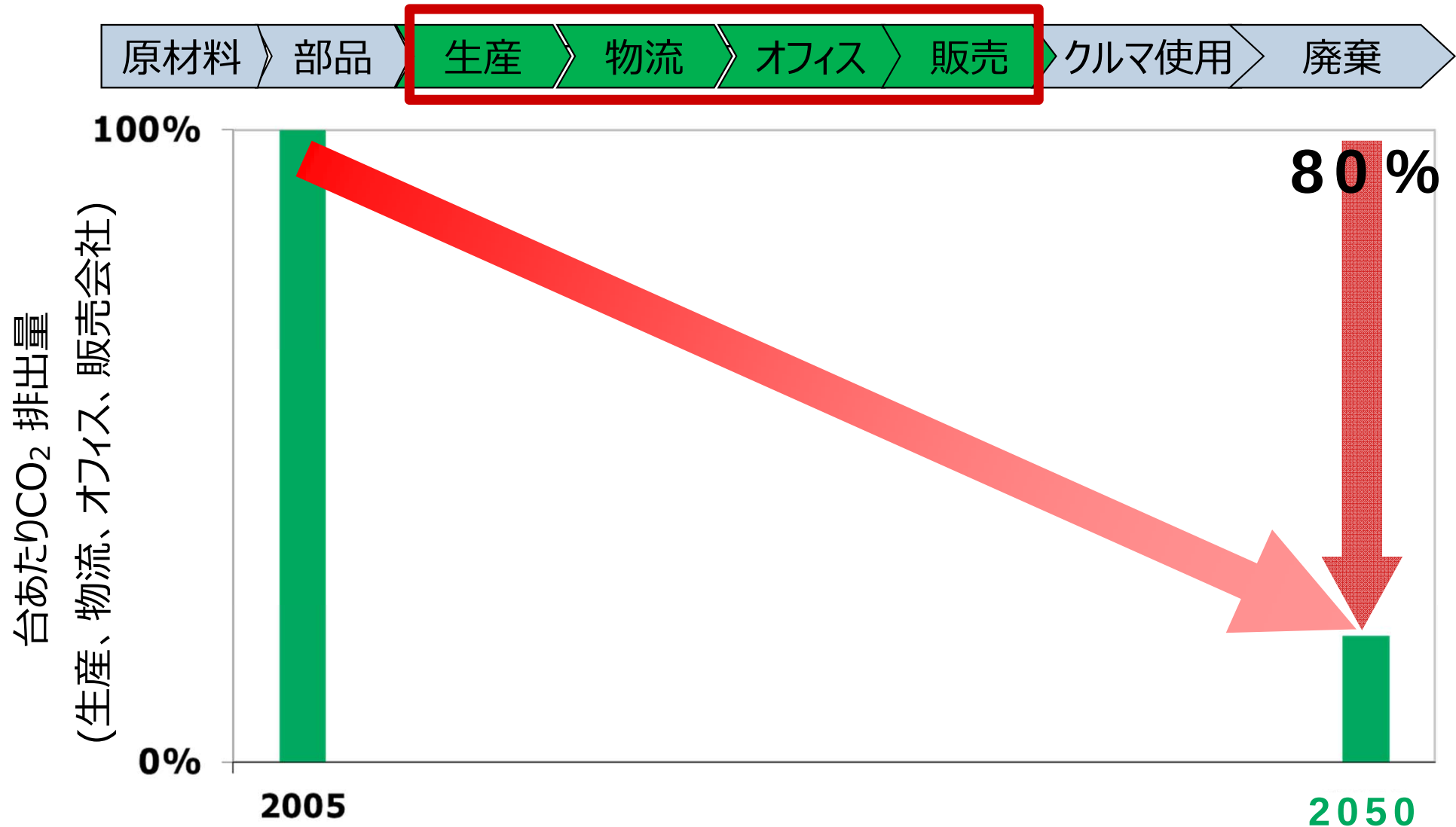
- 2015年度時点も企業平均燃費*は35.7%削減



*日本、米国、欧州、中国市場における企業平均燃費

企業活動におけるカーボンフットプリントの最小化

2050年に向けてCO₂ 排出量80%削減(2005年比) を目指す

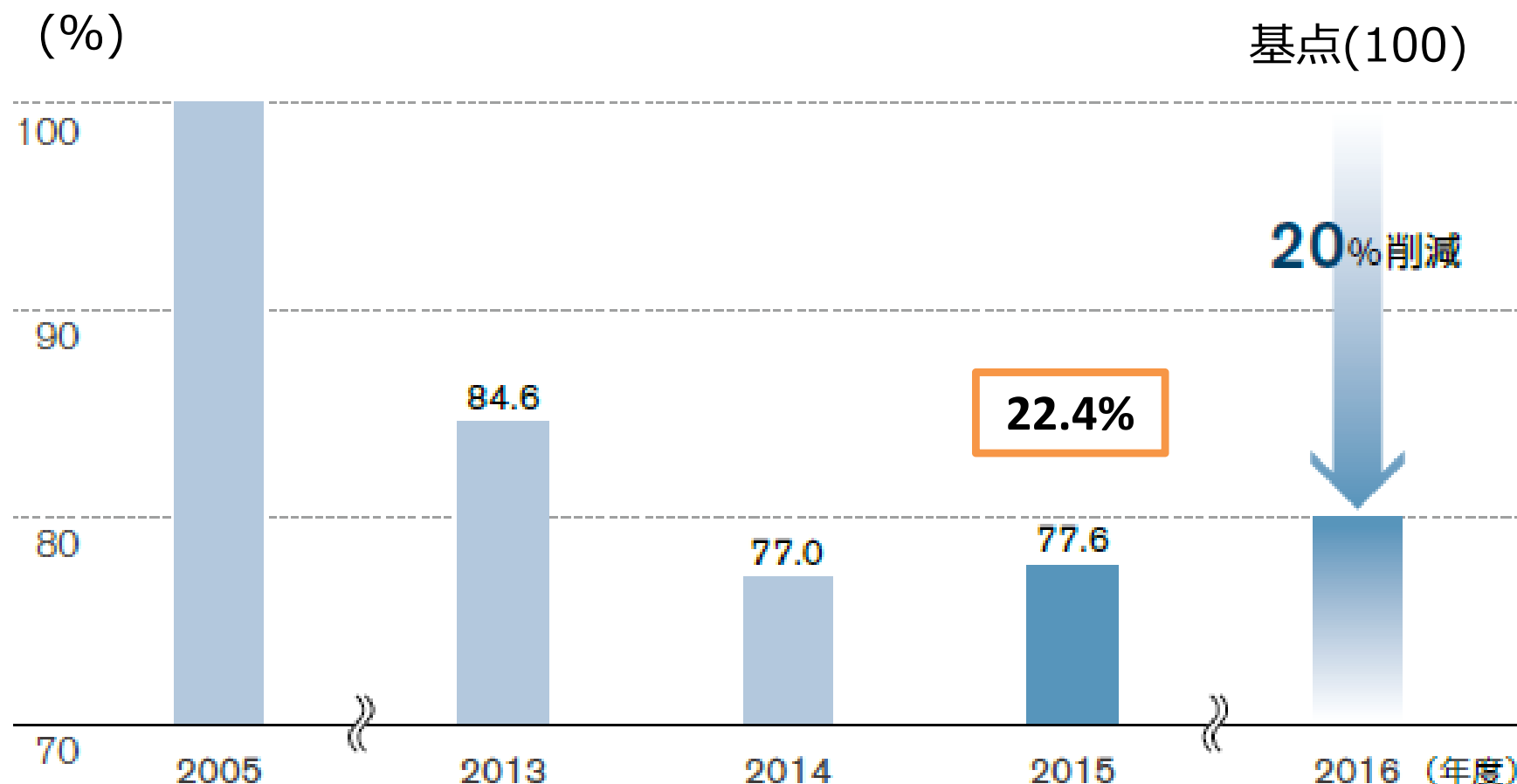


企業活動におけるカーボンフットプリントの最小化

- 2015年度時点、企業活動からのCO₂ 排出量は22.4%削減

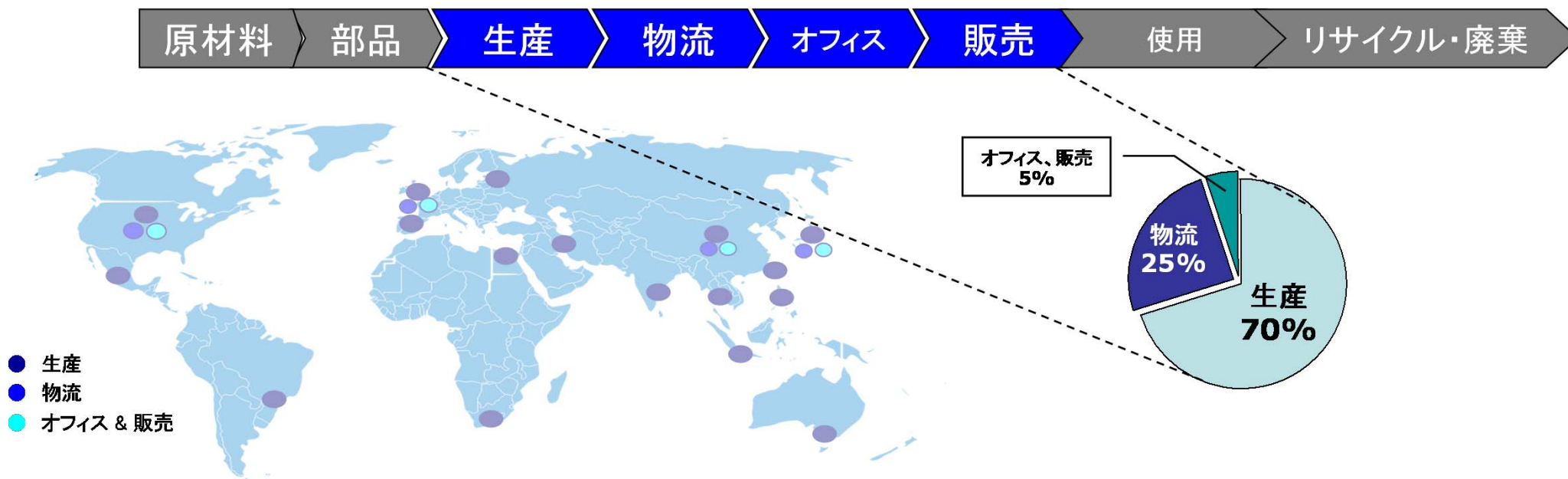


グローバル販売台数あたりのCO₂ 排出量
(生産、物流、オフィス、販売会社)



活動範囲とアクション

- 企業活動全域におけるCO₂を削減
- 再生可能エネルギーの利用を拡大



生産



物流



オフィス & 販売

企業活動におけるカーボンフットプリントの最小化

■ 再生可能エネルギーの導入や普及を推進



サンダーランド (英国)

風力: 6,500 kW

座間事業所 (日本)

太陽光+蓄電池: 10kW



バルセロナ/アビラ (スペイン)

太陽光: 200 kW

追浜工場 (日本)

太陽光、風力: 11kW



スマーナ/フランクリン (米国)

太陽光+蓄電池: 60 kW

グローバル本社 (日本)

太陽光+蓄電池: 40kW



アグアスカリエンテス工場 (メキシコ)

バイオガス: 1,400 kW

大分 (日本)

太陽光: 26,500 kW



日産工機 (日本)

太陽光: 555kW

先進技術開発センター (日本)

太陽光: 31kW



開始: 2014年1月

Scope3算出とサプライヤーとの連携

Scope3排出量算定の目的

日産自動車は2011年度より、「GHG報告ガイドライン」に基づいたScope3排出量を試算

目的

- Scope3基準ベースでのバリューチェーンにおけるGHG排出量の規模と分布状況を把握する。
- バリューチェーンGHGの削減ポテンシャルの推計を行い、削減施策の評価を行う。
- 外部からの環境情報開示に対し回答できるScope3排出量データを得る。

Scope3排出量の構成（2015年度実績）

- 製品であるクルマの使用による排出量がScope3排出量の85%であり、削減に向けグローバルに低燃費車を導入し、企業平均燃費の推移を公表
- Scope3排出量の11%が購入した製品・サービスに由来することから、2011年よりサプライヤーと環境ポリシーを共有し、削減に向け協働

		排出量 (kt-CO2)	構成比 (Scope3のみ)	構成比 (Scope1-3計)
1	購入した製品、サービス	16,485	11.4%	11.2%
2	資本財	1,227	0.9%	0.8%
3	スコープ1、2以外のエネルギー関連活動	378	0.3%	0.3%
4	輸送・配送（上流）	797	0.6%	0.5%
5	事業から出る廃棄物	181	0.1%	0.1%
6	出張	248	0.2%	0.2%
7	雇用者の通勤	319	0.2%	0.2%
8	リース資産（上流）	0	0.0%	0.0%
9	輸送・配送（下流）	802	0.6%	0.5%
10	販売した製品の加工	0	0.0%	0.0%
11	販売した製品の使用	122,799	85.2%	83.2%
12	販売した製品の廃棄	389	0.3%	0.3%
13	リース資産（下流）	480	0.3%	0.3%
14	フランチャイズ	0	0.0%	0.0%
15	投資	0	0.0%	0.0%
	Scope3合計	144,105	100.0%	97.6%
	Scope1	928		0.6%
	Scope2	2,548		1.7%

サプライチェーン環境負荷低減活動 (Scope3カテゴリー1削減)

原材料 ▶ 部品 ▶ 生産 ▶ 物流 ▶ オフィス ▶ 販売 ▶ クルマ使用 ▶ 廃棄

バリューチェーン全体で環境負荷低減活動を推進し、Scope3カテゴリー1の実績把握のため、2012年からサプライヤー様における環境データ調査を開始

- 2012・13年度 : 日産サーベイ (CO2・水・廃棄物排出量, グローバル約3000社)
- 2014年度 : CDPサプライチェーンプログラム参加開始
- 2015年度 : CDPサプライチェーンプログラム継続 (Tier1 : 約500社)



<サプライヤー説明会で環境の取り組み紹介>

2015年度 調査結果

サプライチェーンからの排出量※

	単位	2012	2013	2014
カーボンフットプリント	Kt-CO2	11,662	10,860	10,863
エネルギー	GWh	23,104	21,916	22,243
低炭素・再生可能エネルギー	GWh	-	510	528
水投入量	1000m3	124,921	143,386	130,378
排水量	1000m3	83,239	81,694	74,050

※日産自動車サステナビリティレポート2016（2016年6月発行）に掲載

- 2014年度のCO2総排出量は、生産台数増加に関わらず、前年レベルに止まりました
- 62%のサプライヤー様がCO2削減目標を設定、また、全社のCO2削減目標が無くても、ほとんどのサプライヤー様が省エネ活動を行っていることが確認できました。
- グローバルサプライヤー各社が設定した個別の低減目標により、売上高当たりのCO2排出量、水使用量は年間1%削減される見込みです。
- 引き続き、各社目標に基づいた環境活動の推進を宜しくお願い致します。

サプライチェーン排出量実績把握における課題

2012年から実施した独自のサプライヤー環境データ調査や、CDPサプライチェーンプログラムで得られたデータの分析から、以下の課題が取上げられる

集めたデータの検証と信頼性確保

- 人的ミス（データの単位や桁違い等）
- エネルギーに対する排出量の比率（燃料とScope1、電力とScope2）の相関がないデータも多くみられる

業種別排出量の違い

- 鉄鋼業界を含む排出量TOP20社の排出量が全体の50%以上を占めており、これらの排出量の変化に全体が左右されることから、他業種の削減努力が表れにくい

GHG排出量算出の呼びかけ

- Scope1/2/3算出方法が浸透されていないサプライヤーも多数。

集まったデータの検証と無回答のサプライヤー排出量の推計のため、業種別の原単位（ex.売上高当たりの排出量）があれば効果的

サプライチェーン環境活動の今後の取り組み

サプライヤー環境データ調査の継続

- Scope3 カテゴリー1排出量の経年変化を確認
- 各サプライヤーの排出量削減目標設定有無の把握、設定の呼びかけ
- 回答解説書やCDPサプライチェーンプログラムを活用して、排出量算出方法の周知活動を行う

GHG排出量削減に向けたサプライヤーとの連携

- サプライヤー向け環境説明会で、省エネ活動事例のベストプラクティスを共有
- 省エネ“THANKS”を活用し、共に削減活動を行っていく

ビジョンと中期計画

Vision: 人々の生活を豊かに

中期経営計画



中期環境行動計画

Nissan
Green
Program
(NGP) 2016

ご清聴ありがとうございました